

第2学年社会科学習指導案

時間・場所 公開授業③ 2年4組教室
 学 級 2年4組 33名(男子15名,女子18名)
 指 導 者 格矢 幸治

1 単元名 近代の幕開け (教育出版 中学社会歴史 第5章近代の幕開け P131)

2 単元について

生徒は、ペリーについては小学校で学習しており、ペリー来航により開国した経緯など、基本的なことは概ね習得できている。しかし、江戸幕府が鎖国政策をやめて開国せざるを得なくなった要因が、複数の歴史的な事象が相互に関連し合っている点については気付くことができていない。また、歴史的な分野に興味・関心が高く、予備知識が多い生徒もいる。そのため、活発な発言が見られる。

本単元では、江戸幕府が鎖国政策をやめて開国せざるを得なくなったことと、それに伴う政治経済の変動という大きな変化を主な学習内容とする。そして、江戸幕府に開国を決断させた欧米列強のアジア進出と、その背景にある市民革命と産業革命を合わせて学習する。

そこで本単元では、生徒自身にとって関心のある問いをもてる工夫をすること、複数の歴史的な事象を関連付けられるような手立てを仕組みたい。また、必要に応じて小グループの活動を設定し、生徒同士の関わりが自然と発生するような働きかけを行いたい。

3 単元目標及び評価規準

(1) 単元目標

- ・ヨーロッパにおける市民革命に関心を持ち、今日の基本的な人権や民主主義との関連を考えようとする。
- ・ペリー来航や、不平等条約の内容と、それらが日本の国内政治と経済に与えた影響について、多面的に考察できる。
- ・開国から江戸幕府滅亡までの政治的事件(黒船来航, 長州征伐, 大政奉還など)をもとに、江戸幕府, 朝廷, 郷土の藩の政治的動向を分類することができる。
- ・ヨーロッパにおける市民革命, 産業革命, 近代科学と文化の発達などの学習を通して、ヨーロッパの近代社会の成立と海外進出のあらましを理解することができる。

(2) 単元の評価規準

社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用技能	社会的な事象についての知識・理解
欧米諸国における近代社会の成立とアジアへの進出など、近代の歴史的な事象に対する関心を高め、意欲的に追究して近代の特色を捉えようとしている。	開国とその影響について多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	幕末期の幕府, 朝廷, 郷土の藩の政治的動向を略年表にまとめることができる。	産業革命がヨーロッパの近代社会の成立に貢献したことを理解し、説明している。

4 単元計画 (総時数10時間)

小単元名	時間	主な学習内容
王は君臨すれども統治せず	1	議会政治の始まり
代表なくして 課税なし	1	アメリカの独立革命とフランス革命
「世界の工場」の光とかげ	1	産業革命と資本主義社会の成立
強大な国家を目ざして	1	欧米列強の成立
国をゆるがす綿とアヘン	1	アジアの植民地化と抵抗
内と外の危機	1	外国船の接近と天保の改革
たった四はいで夜も眠れず	1	ペリーの来航と開国【本時】
新たな政権を目ざして	1	攘夷から倒幕へ
御政事売り切れ申し候	1	世直しと江戸幕府の滅亡
単元のまとめ	1	「近代の幕開け」の時代の移り変わりを確かめてみよう

5 本時の指導 (7/10)

(1) 目標

- 江戸幕府が対外政策を転換し、ペリー来航により開国した経緯を、当時のアジア情勢と関わらせて理解することができる。
- 日米修好通商条約の締結後に日本が抱えた問題について、外国との関係や、江戸幕府と大名との関係から考えることができる。

(2) 振り返りの工夫

- 小学校6年生で学んだことを振り返り、課題解決の見通しをもたせる。
- 本時の授業を通して理解したことをふまえ、学習課題に対する予想と終末での自分の考えの違いについて自分の言葉で記述させ、グループで共有することで、学びを価値づける。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点と評価 ()
導 入 5 分	1 ペリー来航の絵を見て、日本に来たことを確認する。 2 ペリーの顔写真を見て、当時の人々がペリーに対して抱いていた感情を把握する。 3 課題を把握する。	1 ペリーの来航の絵を提示する。 2 ペリーの顔写真を提示する。 3 小学校6年生で学んだことを想起させる。
	幕府は、なぜ、アメリカと不平等条約を結んだのだろうか。	
展 開 35 分	4 学習課題に対する自分の考えを書く。 5 ペリーは、どのような目的で、日本に来たかを考える。 6 ペリー来航の2度の様子をまとめる。 7 ペリーの要求に対して、幕府はどのような対応をしたのかを考える。 8 日米和親条約の内容について考える。 9 日米修好通商条約の内容について考える。 10 日米修好通商条約を結んだ経緯について考える。 11 学習課題に対するまとめをする。	4 ノートに自分の考えを書かせる。 5 ペリー来航の目的について考えさせる。 6 ペリー艦隊が琉球経路で来たことを説明する。 7 幕府の権力の衰えに気づかせる。 8 イギリス・ロシア・オランダとも同様の条約を結んだことに触れる。 9 不平等条約であることに気づかせる。 10 ハリスがアヘン戦争をもちだし、幕府を脅かしたことを理解させる。 11 アメリカの軍事力、アヘン戦争に敗北した清の様子などによって、不平等条約を結んだことを記述させる。 幕府が不平等条約を結んだ理由を把握する。【発言・観察】
終 末 10 分	12 本時の振り返りを行う。 ① 指示1分 ② 記入3分 ③ 交流1分 ④ 発表2分	12 視点を示して、振り返りをノートに記入させる。 本時の学習で理解できたことをふまえ、予想記入時と現時点での自分の考えの違いを記述させる。【発言・観察】
	アメリカの軍事力だけではなく、欧米列強のアジア進出の様子を知った幕府は、不平等条約を結んでしまったことがわかった。(第II型)	
	13 次時の予告を聞く。	